

「道庁・派遣物語」

～道職員活躍事例集(派遣編③)～

【今回のテーマ】

市町村派遣



はじめに

この活躍事例集は、各所属・職員の御協力により、仕事や子育ての実体験や、職員・今後道職員を志す方へのメッセージなどをとりまとめたものです。

第1弾では、女性職員に焦点を当てて紹介しましたが、第2弾では、派遣経験のある職員を紹介することとし、省庁、被災地支援に続き3回目となる今回は、道内市町村への派遣職員を紹介します。

職員の皆さんには、派遣職員が経験した、より地域に密着した仕事の内容や進め方、市町村職員としての立場からの道庁に対する見方など、今後の参考にしていただきたいと考えています。

また、これから北海道職員を目指す方にも、道職員が道庁内だけではなく、様々な場所や地域で勤務していることを知っていただき、道職員の魅力について、一層の理解を深めていただけると幸いです。

今回の事例集の発行にあたっては、掲載職員の派遣先の市町村長からもメッセージをいただきました。大変ありがとうございました。

平成27年4月23日

総務部人事局人事課

目次

○ 総合政策部交通政策局交通企画課 主幹 中尾 敦	3
木古内町まちづくり新幹線課新幹線振興室	
○ 石狩振興局地域政策部総務課 主査 七田 恒	7
恵庭市経済部花と緑・観光課	
○ 上川総合振興局地域政策部総務課 主査 井出 恵子	10
東神楽町産業振興課	
○ 上川総合振興局地域政策部地域政策課 地域政策係長 中里 安紘	13
占冠村企画商工課	
○ 釧路総合振興局地域政策部総務課 主査 佐藤 圭	17
釧路市産業振興部産業推進室	
○ 後志総合振興局地域政策部総務課 主事 矢元 あみ	21
ニセコ町企画環境課	

総合政策部
交通政策局交通企画課主幹

(H5年採用・一般行政)



中 尾 敦

○職務経歴

平成 5年 4月 保健環境部保健予防課
平成 8年 4月 根室支庁総務部社会福祉課
平成10年 5月 根室支庁地域政策部地域政策課
平成11年 3月 株式会社リクルート(研修派遣)
平成12年 4月 総合企画部交通企画室交通企画課
平成15年 7月 総務部知事室秘書課
平成19年 5月 知事政策部主査
平成19年 6月 北海道開発局開発監理部開発計画課調査専門官(出向)
平成20年 4月 内閣官房地域活性化統合事務局北海道地方連絡室事務官(出向)
平成21年 4月 経済部商工局商工金融課主査
平成23年 6月 総務部行政改革局行政改革課主査
平成24年 4月 渡島総合振興局地域政策部総務課主幹
平成24年 4月 **木古内町まちづくり新幹線課新幹線振興室長(派遣)**
平成27年 4月 総合政策部交通政策局交通企画課主幹

○ 派遣先での仕事の内容

北海道新幹線木古内駅開業に伴う地域振興施策を担当しています。仕事は多岐に渡り、新幹線への関心を喚起するためのイベントや話題づくり、渡島西部、檜山南部9町が連携した広域観光の推進や二次交通の検討、観光コンシェルジュの育成、東北や関東でのプロモーション活動、駅前拠点施設(道の駅)建設、姉妹都市と連携したレストランプロデュース、特産品の開発促進といったところが主で、時には住民の方々と一緒に地引き網を引いたり、鍋づくりや雪像づくりを行うことも。

函館という巨大な吸引力のある町を側に控え、木古内を単なる通過駅にさせないためにはどうすればよいのか。ヒト、モノ、カネに乏しい小さな町において、日々答えのない自問自答の中、仕事を行っています。

**Q 派遣を打診されたときの感想
家族の反応など**

道から外に出るのは3回目なので、特段の感想はなく、同じ道職員である妻も「頑張ってきてね」と快く送り出してくれました。



レール締結式を終えたばかりの新幹線駅で

**Q 風土や仕事の進め方など
道庁との違いを感じたこと**

全般的におっとり、のんびり構えている方が多く、仕事を進める上でもどかしい点も多々ありましたが、反面、方針さえ決まれば、小所帯である分、庁内の風通しは極めてよく、総務部局ですら現課の立場に立って、共に財源や進め方などについて知恵を出しあう姿は、大変気持ちの良いものがありました。

私がこれまで経験した国、道、市町村、民間企業という4つのセクターの中では内部調整に要する時間と手間は道庁が飛び抜けて多い。もっとこのエネルギーを外に向けることができれば、と強く思います。



行政、運輸関係者ととも新たな観光商品探し

Q 印象深かった仕事など

新幹線の開業は官民が広範に関わる一大プロジェクトですが、道内における先例のない中、何を共通目標として、どのように関係者が役割分担を行うべきなのか。この点については、いまだに十分なコンセンサスが得られているとは言えません。特に新幹線が入ってくる道南と札幌との意識差はまだまだ大きく、この意識のずれが自分にとって最大の悩みでもありました。

個々の事業においては、開業というタイムリミットが着々と迫る中で、様々なことを短時間で決断し、実行しなければならないことが非常に多く、厳しい日々でしたが、大森町長がよく仰っていた「木古内が失敗しても成功してもそれが札幌延伸に向けた礎となる。伸び伸びとやってください。」という言葉。これは大変有り難かったですね。



江差 姥神渡御祭 山車巡幸前のひととき

Q 外から見た道庁

道庁は、社会のほとんどあらゆる分野と関わりを持つと言っても過言ではない「総合官庁」です。

道庁の有する様々な行政情報やツール、ネットワーク力を十分に生かすため、狭い担当ラインのみで物事を進めるのではなく、部間の壁を越え、時には外部の力も柔軟に活用しながら、戦略的に施策の展開を図っていくべきだと思います。

Q 今後の派遣職員へのアドバイスなど

2年間という派遣期間(私は1年伸びましたが)は本当にあつという間で、早めに地域の状況とキーマンを把握し、自分の立ち位置とアクセルの踏み具合を見定めることが極めて重要です。

あと、振興局の皆さんは本当に力になります。私も苦しい時、何度となく助けられ、心の支えとなって頂きました。ぜひとも密な連携を心がけてください。

3年間ともに頑張ってきた町の仲間



○ 大森町長からお言葉をいただきました。

夢の新幹線が開業まであと1年となり事業も終盤。高橋道政2年目に北海道新幹線が決定し、翌年の建設工事スタートから10年目の春を迎えた。

町民が初めて経験する大事業、この中で人事交流で見えていた道職員は担当管理職として冷静沈着に交渉力や調整力を存分に発揮、そのレベルの高さに驚いた。

事業が順調に進む中、北海道最初の駅となる木古内町にとって開業後にしっかりと経済効果を出すことが最重要課題で、木古内駅の利用客を増やすには「渡島西部、檜山南部9町連携による広域観光」が必要と判断し、確かな先導役として道職員の派遣を要請した。

5年前の派遣職員は、2年間在職中に新幹線開業までのレールを敷いて戻られたのだが、企画力と行動力に並ならぬ素晴らしさを感じた。

3年前からは中尾敦さんが当町に登場。開業に向けた準備も初期段階であっただけに、広域観光を始め多種多様な事業に休む時間もなくスピード感を持って果敢に取り組む姿勢に頭が下がった。

アイデアマンでもあり、今では当たり前になった開業カウントダウンだが、中尾室長企画のキーコのため「あと1200日」を道内で一番最初に発表すると、高向巖道商連会頭から称賛され、半年後に各所で行われた「あと1000日」セレモニーでは、札幌から会頭ご自身が木古内会場に足を運ばれ盛大に式典を行うことも出来ました。唯一気になるのは、高向巖会頭にお目にかかるたびに「木古内町長さんはアイデアマンだ」と言われることです。

結びに、道職員1名の派遣は、道庁、振興局など道職員の皆様がマチの応援団となって下さる。みんなが木古内町を心配して下さる。感謝に堪えません。

また、この度は異例の3年間の木古内町派遣となりましたことに、ご本人はもとより関係者の皆様に心よりお礼を申し上げます。

石狩振興局地域政策部
総務課主査

(H11年採用・一般行政)



七

田

恒

○職務経歴

平成11年 8月 上川支庁南部耕地出張所
平成15年 4月 上川支庁地域政策部地域政策課
平成17年 3月 ホクレン農業協同組合連合会(研修派遣)
平成19年 4月 経済部商工局産業振興課
平成21年 4月 経済部総務課
平成25年 4月 石狩振興局地域政策部総務課主査
平成25年 4月 恵庭市経済部花と緑・観光課主査(派遣)

○ 派遣先での仕事内容

観光振興全般と花のまちづくりに関する業務を担当しています。有識者会議の運営や次期観光振興計画の検討などの企画調整のほか、これまで発信不足であった観光PRの充実、えにわマルシェや花とくらし展、紅葉まつりなど各種イベントの開催、道の駅や観光公園など所管する観光施設の管理、「花のまちづくり」に関する市民活動の支援など幅広い業務を行っています。時には、市民の皆さんと花を植えたり、イベントでは野菜を売ったりと現場に密着した様々な業務もあり貴重な体験でした。



サッポロファクトリーで観光PR

Q 印象深かった仕事など

次期観光振興計画などの企画調整は、まちの将来に関わることであり大変やりがいがありましたし、「花のまちづくり」の推進にあたっては、市民の皆さんと協働で取り組むことができ貴重な経験となりました。特に、この2年間は、これまで露出が少なく、認知度が低かった恵庭観光をしっかりと定着させ、足元を固めていくために、道央圏をターゲットとした施策を重点的に展開してきました。また、道の駅の集客力を活かした市内への波及や、受入環境の整備、インバウンドへの対応、花の観光拠点整備のあり方検討など、今後取り進めるべき具体策を、有識者会議で検討を重ね方向付けをしました。

意欲的な観光事業者をどのように支援・育成し、連携させていくのか、行政としてどのようなきっかけづくりができるのか、試行錯誤の連続でした。



道の駅で開催された恵庭市最大のイベント

Q 派遣を打診されたときの感想 家族の反応など

初めての市町村派遣でしたので、もちろん不安な面もありましたが、期待感や楽しみな気持ちの方が大きかったです。打診を受け席に戻って市役所のホームページを直ぐに確認しました(笑)。

家族に話すと、街のスポットを調べるなど情報収集していました。赴任先での生活を楽しみにしてくれました。

Q 外から見た道庁

観光分野においては、利用者目線に立った場合、単独市町村で観光を完結させるのは現実的ではなく、広域観光の取組みが求められます。

市町村派遣により、地域の相談やコーディネート、管内の広域連携など、振興局の役割や重要性を改めて実感しています。

また、道職員の仕事はやりがいがあるとともに、その責任も大きいと改めて感じました。



観光事業者向け説明会の様子

Q 風土や仕事の進め方など

恵庭市は、「花のまちづくり」など全国的にも先進的な取り組みを行ってきましたが、そのきっかけとなったのは市民活動でした。市民との合意形成を大切に、市民活動を積極的にまちづくりに活かしています。市民とともに課題を解決していく取組みは大変勉強になりました。

また、市民との合意形成を大事にしながらも、方針が固まればスピーディーな対応が可能な点も市町村行政の特徴だと思います。

例えば、何ヶ月も準備を進めてきた恵庭溪谷のイベント会場が、大雨により大きな被害を受けて、開催中止が頭をよぎりましたが、原田市長の「ここまで準備したのだからやろう」との判断により、建設部の協力を得て応急復旧工事を行い開催にこぎつけ、盛況のうちに無事終えることが出来ました。

Q 道と市町村の連携について

道と市町村との人事交流は、本人の経験や能力開発はもちろんですが、それぞれの組織の活性化に寄与していますので、もっと運用面で深化する方法はないかと考えています。連携には色々な仕組みが必要かもしれませんが、最後はやはりお互い「顔の見える関係」を築いていくことが一番だと思います。



有識者会議の様子



恵庭溪谷 紅葉まつり



市民団体の皆さんと花の町づくり活動

○ 原田市長からお言葉をいただきました。

七田主査、2年間本当にお疲れさまでした。恵庭に住み始めた頃は、いろいろ戸惑うことも多かったと思いますが、しっかりとした仕事ぶりには感心しました。特に重点業務の処理は、期待を大きく上回る内容でした。七田主査においては、恵庭にたくさんの仲間がいますので、今後も大きな飛躍を期待するとともに応援していきます。

また、現在、恵庭市には七田主査の他3名の道職員が派遣されているところですが、道における実務経験を十分に活かして市町村が抱える課題に取り組んでいただけており、今後も支援いただきたいと思います。

Q 休日・プライベート

1年目は地域の勉強を兼ねて色々遊びに出かけました。

家族と赴任先の名所を訪ね歩くのは市町村派遣の醍醐味のひとつです。

ソフトボールやボウリング大会など職場の親睦行事も多く懇親を深めることができました。

また、地域の色々なイベントに参加することができるので、プライベートも充実です(仕事柄、イベント主催者の場合も多いですが…)。

Q 今後の派遣職員へのアドバイスなど

市町村派遣は行政経験のみならず様々な経験をすることができますし、今後の職務に役に立つことが非常に多いです。

もし機会があれば積極的に手をあげてみてください。

ただ、2年間(自ら予算要求したものを執行できるのは1回だけ)はあっという間に過ぎてしまいますので、スケジュール感を意識した取り組みが必要です。

また、派遣先では仲間をいっぱい作ってください。

もちろん派遣後はその市町村の応援団です！

(H9年採用・農芸化学)



井 出 恵 子

○職務経歴

平成 9年 4月 檜山支庁農業振興部農務課
平成13年 4月 石狩支庁農業振興部農務課
平成19年 7月 農政部農業経営局農業支援課
平成23年 6月 農政部農村振興局農村設計課
平成25年 4月 上川総合振興局地域政策部総務課主査
平成25年 4月 **東神楽町産業振興課主査(派遣)**

○ 派遣先での仕事内容

国費・道費の農業関係補助事業全般を担当しており、主に農林水産省所管の農業施設整備・農業用機械に関するハード事業について、農家説明会の開催、事業ヒアリングの実施、交付申請関係の事務、過年度事業の評価、財産処分等を行っています。

また、本町には、農村女性が交流する場として、農協女性部の活動がありますが、20代～30代の若い農村女性(お嫁さんや後継者)が集まれる場がなかったため、農協及び普及センターと連携し、若い農村女性の横の繋がりを作ることを目的に交流会を開催し、町内産の米や小麦等を使った調理実習等を通じて、自分たちの町の農産物のおいしさを実感してもらいました。



農業女子プロジェクト
(牛乳・乳製品親子クッキング)

Q 派遣を打診されたときの感想 家族の反応など

市町村派遣の希望は出しておらず、どこかの振興局に異動になるものと思っていたため、派遣を打診されたときは非常に驚きました。

派遣前は、夫が単身赴任のため、母・娘の二人暮らしをしており、派遣後は、父・娘の二人暮らしとなるため、家族全員が不安な気持ちでいっぱいでしたが、互いに理解・協力し合い、何とか2年間過ごすことができました。



東神楽町 花まつりの様子

Q 仕事で苦労したこと、印象深かったことなど

国費・道費の農業関係ハード事業では、補助事業の事業計画書の中に、農業者自らが作成しなければならないものがありますが、その様式が、農業者が作成するには煩雑過ぎるため、大部分をお手伝いする必要がありました。

そのため、書類作成の責任の所在が曖昧になり、後になってトラブルの原因にならないよう、事業を実施する農業者に対し、事業の趣旨から丁寧に説明するとともに、計画書の内容について十分に確認を行いながら作成しました。

農村女性の交流事業は、農家の女性も外で働く方が増えており、平日・昼間に開催される交流会には、時間等が合わないためか、人集めには大変苦労しました。

農家を個別に訪問するなどして、ようやく参加者を集めても、小さなお子さんを持つ方が多いため、お子さんの体調不良などにより、急遽欠席される方もいて、当日の参加者が申し込み者の半分以下の回もありました。

この取組は、平成26年度から始めたもので、初年度は年4回開催しましたが、なかなか定着せず、参加者の広がりも思うようには行きませんでした。参加された方からは好評なので、27年度以降、参加者の口コミなどにより、もっとたくさんの方が参加するような集まりになることを期待しています。

Q 風土や仕事の進め方など

道庁よりも組織がコンパクトなため、内部調整等に時間を割くことが少なく、企画・立案、実行までがスピーディであると感じます。

また、行事等の開催については、自由度が高く、職員のアイデアや工夫が生かされていますし、住民に対しては、普段から接する機会が多いため、対応に慣れており、接し方も丁寧で、頼まれごとにもフットワークが軽く、学ぶべき点が多いと感じました。

Q 外から見た道庁

道を経由する国の補助事業等の事業計画等について、国から何度も指摘を受け、書類が何往復もすることがありましたが、他市町村の事例などから適切にアドバイスしてくれる方と、ただ指摘事項をメールで送ってくるだけの方がいます。道には、各市町村の事例なども集積されており、書類が道を経由する意味はそこにあると思うので、市町村から信頼され、本音で話し合える関係を構築するためにも、市町村と一緒に考え、的確にアドバイスを行うことが必要であると感じました。

また、補助事業などで困ったことが生じた場合、道(振興局)に相談するよりも近隣市町村に電話等で相談するなど、敷居が高いと感じている職員が多いようにも思いました。

Q 道と市町村の連携について

各市町村が抱える共通の課題について、振興局等が中心となって意見交換会を開催していただいているが、課長職等を参集範囲としているものが多いので、担当者や若手職員を対象とした意見交換会や勉強会を開催し、職員の資質向上や情報収集の場になれば良いと思う。

Q 休日・プライベート

現在、単身赴任をしているので、毎週末、家族の元へ帰っていますが、年に数回、週末に大きなイベントがあるときは、町の行事に参加しています。職場の方も、単身赴任であることを知っているのので、週末の出勤等については、配慮してくれています。

Q 今後の派遣職員へのアドバイスなど

町の仕事は、住民との距離がとても近く、いい意味でも悪い意味でも自分の仕事に対する反応や結果がすぐ分かります。言い換えれば、それだけやりがいのある職場であるということです。

現在の道庁の仕事にあまり充実感や達成感を感じていない方、現場経験を多く踏みたい方、お祭りやイベントに参加したり企画したりすることが好きな方は、ぜひ、市町村派遣をお勧めします。

道職員では経験することができないような貴重な経験ができる上、市町村職員の立場から、道庁を見ることができるので、今まで気が付かなかったこと、見直すべきところが見えてきます。

「派遣先の市町村が、きっとあなたの第2の故郷になるでしょう。」



農業女子プロジェクト
(デコ巻きずし講習会)



ウインターフェスティバル
雪あかり

○ 山本町長からお言葉をいただきました。

井出主幹には東神楽町役場並びに東神楽農業に大きな貢献をして頂きました。

その一方、中学生のお子様を残しての単身赴任はさぞかし大変であったろうと思います。

地域住民と直結する町役場に来られて農業者と直接話をして事業を行うことは、道職員の方には中々馴染めないものかと思っておりましたが、そんなことはなくしっかりと信頼関係をつくり、その仕事ぶり、農業者の評判は「もう少し残ってもらえないか」の声に代表されています。また、補助事業の取り組み方を課内でOJTして頂き、今後の方向性として確立してくれてもいます。

町のまつりでカラオケ大会に参加して頂いたり、課のチームワークにもキーパーソンとして大変助けられたとも聞いております。

しかし、2年の派遣期間の終了の時期が近づいております。井出さんを通じて道職員の皆様の人間性や仕事に取組む姿勢を見させて頂き、町の職員にも大きな影響を与えて頂いたと感じております。今後ともこの派遣事業が続き、道と町村の関係が深まることを祈念しております。井出さんにおかれましては、道庁で北海道の発展のために、ますますのご活躍をされますよう、ご健勝とご発展を心よりお祈り申し上げます。長い間本当にありがとうございました。

上川総合振興局地域政策部
地域政策課地域政策係長

(H13年採用・一般行政)

中 里 安 紘



○職務経歴

平成13年	4月	総合企画部経済企画室統計課
平成16年	4月	宗谷支庁地域政策部地域政策課
平成19年	4月	東京事務所(政策研究大学院大学派遣)
平成20年	4月	環境生活部生活局道民活動文化振興課
平成22年	4月	総合政策部地域づくり支援局
平成25年	4月	上川総合振興局地域政策部総務課主査
平成25年	4月	占冠村企画商工課企画担当主査(派遣)
平成27年	4月	上川総合振興局地域政策部地域政策課地域政策係長

○ 派遣先での仕事内容

占冠村役場で企画担当主査として勤務しています。村内各集落の維持・活性化に向けた集落対策を中心に、移住・定住や地域交通、最近では国の地方創生関係など、企画担当として幅広い業務を担当しています。

集落対策では、高齢化や人口減少が進む村内各集落の実態調査や結果の分析、住民の皆さんとの意見交換などを行い、集落ごとの今後の方向性を定めた集落対策方針の策定を行っているほか、集落支援を任務とする地域おこし協力隊を採用し、隊員と共に集落の維持・活性化に向けた取組なども行っています。時には住民の皆さんから、行政に対する厳しいご意見をいただくこともあります。道庁ではあまり経験できなかった地域住民(道民)の皆さんの生の声を直接伺うということは、自治の現場である市町村だからこそできる貴重な機会・経験であると思います。



集落の皆さんとの意見交換の様子



集落点検の様子

Q 派遣を打診されたときの感想 家族の反応など

道職員の市町村派遣があることは知っていましたが、自分が派遣されることは全然予想していなかったこともあり(普通、予想できないでしょうが)、派遣の話聞いたときは、まず「驚き」でしたね。それから、経験のない市町村勤務ということで、不安も感じました(落ち着くにつれ、楽しみになっていきましたが。)。妻は、異動の話をして、それほど驚いた感じはなく、「占冠村ってどこだっけ?」と笑っている程度だったので、何だか自分が小心者に感じたことを記憶しています。



北海道くらしフェア (大阪)

Q 風土や仕事の進め方など

道と市町村では、役割の違いや組織の大きさなども異なるため、単純な比較はできませんが、仕事を進める上で、力を入れる部分の違いは大きいと思います。仕事には内部調整や文書作成など様々なものがありますが、日頃から、住民要望への対応については、意思決定や実行にスピード感があり、できる限り丁寧・親切に対応するなど、役場職員の皆さんの意識の高さを感じさせられました。

また、道庁と比べると、担当者の裁量の幅が広く感じられ、新しい取組など、担当者のやる気や努力次第で、色々なことにチャレンジしやすい環境にあり、若手職員には、とてもやりがいを感じられるのではないかと思います。私も比較的自由に仕事をさせていただいたと思いますが、その分、責任感や主体性、しっかりとした考え方が、より必要になると感じられ、仕事に対する意識などの面で、以前よりも成長することができたと思います。

Q 印象深かった仕事など

集落対策関連では様々な取組を行いましたが、まず、村内の多様な主体が参画する地域協議会を設置し、この協議会を主体として、集落の実態調査(集落点検やアンケート調査)や住民意見交換会を実施し、各集落の皆さんと対話・意見交換を積み重ね、集落ごとに今後の集落対策方針を策定しました。また、この方針などを踏まえ、住民の皆さんや関係団体、地域おこし協力隊と連携し、集落の維持・活性化や地域資源活用に関する様々な取組、地域カフェの運営や伝統文化振興事業などを実施しました。

このほか、高齢になっても住み続けられる地域を目指し、新たな交通機関である乗合タクシーの運行に必要な許可を得るため、国や関係団体と調整し、地域公共交通会議を開催するなどして許可を取得することができました。また、村の重点政策の推進や特産品の販売促進などを目的にしむかっぶ・村づくり寄附金(ふるさと納税)制度や、移住促進にあたり課題となっていた村内の住宅や宅地の不足に対応するため、空き家バンク制度の創設なども行いました。

しかし、村に来た当初は、地域の状況も人もわからず、集落対策という業務も前例が無いなど、すべて手探り状態であったこと、また、役場の仕事の進め方なども、道庁と異なる部分があるので、初めはわからないことばかりでしたが、新規採用職員になった気持ちで地域のことを学ぶとともに、周りの同僚の方から多くのサポートをいただけたおかげで、何とか円滑に仕事を進めることができました。

業務の中で印象深かったことは、私が採用や業務マネジメント等を担当し、一緒に仕事をしてきた集落支援を任務とする地域おこし協力隊の方が、農業者として村内で就農・定住することになり、地域の貴重な担い手の確保につながってうれしかったと同時に、人や地域との偶然の出会いや「縁」が、人生の大きなターニングポイントになる場合があることを改めて感じさせられたことですね。

Q 外から見た道庁

市町村の担当者の立場から見ると、道の個々の担当者(職員)の考え方や対応が、市町村の道庁に対する印象やイメージをつくるのではないかと感じます。特に、普段、市町村とのやり取りが多い振興局や出先機関では、その市町村の状況をよく踏まえて相談や情報提供などを行う必要があることを個々の職員がしっかりと意識しておく必要があると思います。そのためには、道も市町村も、できる限り「互いの顔が見える関係」をつくっていく努力が必要ではないかと思えます。

また、市町村の中でも規模の小さな自治体は、限られた人員で多くの仕事をこなしており、職員の所管事務も幅広いのが一般的かと思えます。道庁にいたときはあまり意識しなかったのですが、スタッフが多く、担当事務も細分化(専門化)されている道職員は、特定の仕事に専念でき、多くの情報を有しているのですから、市町村への的確なアドバイスやコンサルタント機能が求められることを自覚する必要があると感じました。

Q 休日・プライベート

市町村では、休日にイベントが開催されるところが多く、占冠村でも山菜市、ふるさと祭り、紅葉祭り、アイスクャンドルなどが季節ごとに開催されており、私も運営スタッフとして参加することが多かったのですが、役場職員の皆さんは、慣れていることでもあります。様々な準備作業を手際よく、効率的に行っており、大変感心させられました。皆で協力して行うイベントは、達成感や充実感が得られ、市町村勤務の醍醐味の一つではないかと思えます。

プライベートでは、村内や近隣で自然体験ツアーに参加したり、鵜川でラフティングをしたり、村内の大型リゾート施設でスキーなどを楽しんだりしました。また、家の前で同僚と焼肉パーティーをしたり、近所で子どもと昆虫採集をするなど、地域ならではの過ごし方を楽しみました。あと、村内には大きなスーパーがないので、週末、近隣の都市まで買い出しに行ったことなども、都市部でしか生活したことがなかった私には新鮮に感じられました。



鵜川でラフティング

山登りツアー

トマムの雲海テラス



Q 道と市町村の連携について

市町村との連携やサポートということを考えた場合、市町村にも規模の違いがあるため、一律ではなく、規模に応じた対応や配慮が必要ではないかと思えます。また、都市部以外の自治体では、マスコミ関係の方が来られる機会が非常に少ないので、PRしたい取組があっても、マスメディアを通じた情報発信は難しい状況にあります。地域情報の発信という点で、例えばですが、プレスリリースなどで、市町村が道の有する機能やネットワークをもっと活用することができれば、市町村は取組をPRできるだけでなく、地域づくりへの住民の関心を高めることができ、道も地域情報を共有することができるなど、相互にメリットがあるのではないかと思います。



中村村長とツーショット

Q 今後の派遣職員へのアドバイスなど

近年、「限界集落」や「人口減少」といったキーワードを「文字」として様々なところで目にしますが、市町村、特に小規模な自治体に実際に暮らし、集落の住民の皆さんと対話し、実際に集落に表れてきている高齢化や人口減少の影響を「実感」として肌身で感じながら地域の課題に取り組むということは、住民と接する機会が多い市町村でしかできない経験だと思います。

この経験は、今後、道職員として施策の立案等を行っていく上で、とても貴重なものであり、市町村派遣は自身の大きな成長につながる機会であったと感じています。

市町村に派遣された場合、それぞれの市町村で、おそらく道庁との仕事の仕方や考え方等の違いがあり、初めは戸惑うことがあるかもしれません。

私の場合は、そうした違いは素直に受け入れつつ、道職員としてのこれまでの経験等を生かし、任期内に自分が地域のためにできることは何かということを中心に考え、仕事に取り組みました。

結果的には、職場や地域にも早く馴染むことができ、仕事もプライベートも充実したのになったのかなと思っています。

○ 中村 村長からお言葉をいただきました。

市町村職員は日々の仕事に追われ、住民と日常生活を共にして行政サービスを行うため、大胆な発想と緻密な計画に係りづらい状況にあります。

道職員の派遣依頼は、まさにその部分を担っていただくためであり、村の懸案事項である集落対策を業務とし、地域おこし協力隊の活動と歩調を合わせ難題に取り組んでいます。

中里主査は、地区別にアンケート調査で住民の意識や意向を把握のうえで、地域の未来を語る会を数回にわたって開催し、熟議の中から集落の方向性を導いてきました。

言葉では簡単ですが、十人十色の意見、要望が出てまとまりがつかないところでも、誠実な人柄、道職員としての知見、ネットワークなどを駆使して難問を処理し、計画をまとめました。また集落対策を進める中でふるさと納税、空き家バンクなど、村の現状や住民の意向を踏まえ、積極的に制度設計されたことも大きく評価できるものです。

ただ残念なことは派遣期間は2年であり、中里主査が植えた種が発芽するところでありますが、根を張るまでは見届けられない状況です。願わくばあと1年、3年間の派遣期間があればと希望するところです。特色ある集落の方々の思いをまとめ、自助・共助・公助の役割を明確にさせていただいたことに感謝致しています。

釧路総合振興局地域政策部
総務課主査

(H10年採用・一般行政)



佐

藤

圭

○職務経歴

平成10年 4月	北海道警察学校初任教養部初任科生
平成10年 7月	十勝支庁経済部林務課
平成15年 4月	士幌町(派遣)
平成17年 4月	水産林務部森林環境室森林活用課
平成20年 4月	水産林務部総務課
平成23年 6月	水産林務部林務局林業木材課
平成26年 4月	釧路総合振興局地域政策部総務課主査
平成26年 4月	釧路市産業振興部産業推進室産業推進担当専門員(派遣)

○ 派遣先での仕事内容

釧路市では、平成22年に市有林をはじめとした釧路市内の森林資源の活用策を検討するため「釧路森林資源活用円卓会議」を設置し、地域材の利用拡大における課題解決のため「くしろ木づなプロジェクト」を実施しています。この、釧路森林資源活用円卓会議のうち、川下部会(林産業・住宅・家具)や、普及活動・木育に関することを主に担当しています。

また、釧路の産業クラスター創造に関することや、食の地産地消として実施している「くしろ食財の日」、「マルシェくしろ(和商市場内の地場産品アンテナショップ)」などに関すること。環境分野・エネルギーとして、木質バイオマスに関することを担当しています。



釧路白糠工業団地の草刈り

Q 派遣を打診されたときの感想 家族の反応など

以前勤務していた課に、2回目の市町村派遣から帰ってきた同僚がいて「2回などあるんですね」と笑っていましたが、まさか自分に降りかかるとは考えていませんでした。もっとも機会を頂いたことへの感謝の方が先でしたけれど。まあ、3回目は無いと思いますので、何とかやり切りたいと思っています。家族は…道職員として考えますと全道での異動は当然ですから、異動先がたまたま派遣だったというぐらいの反応です。

Q 印象深かった仕事など

「釧路森林資源活用円卓会議」が設置された当時から、この事業は道の派遣職員が担っており、私はその三代目になります。先人による「立ち上げ」、「試行錯誤」の後であり、これまでの各事業の体系化と総括、そして今後5年間の方向性の検討が私の最初の仕事となりました。

総括の一つとして、釧路では13年ぶりとなる木の単独イベント「くしろ木づなフェスティバル2014」を平成26年10月に実施しました。一部のデザイン等を除き、会場設営や資材準備、サインの作成、ステージイベントなどを委託せず実行委員会で行うなど関係者の負担も大きかったのですが、こうした努力の成果か、2日間の来場者数は2,300人近くを数え、釧路の単独イベントとしてはたいへん盛況なものとなりました。

また、これまで、「くしろ木づなプロジェクト」での商品開発は、カラマツ材を対象としてきましたが、その技術的限界も見えてきていることから、よりニーズに即した形で商品開発ができないかの検討を始めました。それが「くしろ木づなプロジェクト商品開発の事業戦略」の策定です。今後はこの事業戦略に基づき、個別需要による試作から、プロジェクトチームによる開発体制に変更し、シーンに合わせた売れるモノづくりと販売体制を構築したいと考えています。



くしろ木づなフェスティバル 2014

Q 風土や仕事の進め方など

道庁と比較して組織が小さいため、理事者との距離が近く判断が早いです。ある程度の事項があれば随時理事者に説明を行い、新規事業に関しては予算要求前に理事者とのヒアリングの機会が設けられていることから、事業趣旨の読み違いが少なく、無駄な査定作業が省略されます。

維持費を除く予算査定を企画部門が対応しているため、基本的に「どうすれば施策との整合が取れ、市民により良いサービスを提供できるか」という視点で査定し、人的・時間的な「不毛な資源投入」をまず必要としない。そういう意味で驚くほど合理的です。

身近なところでは、出勤簿は無く、IDカードで出退勤時間がカウントされ、時間外・代休などもそのシステムと連動しているなど、庶務の軽減が図られています。日々の予定表も個別のエクセルなどではなく全庁で1つのため、他課の予定もある程度把握できます。車両も全庁管理で事前予約制です。



豪華客船来航時のマルシェくしろ出店



北海道教育大学釧路校附属小学校給食交流会

Q 道と市町村の連携について

さまざまな情報は、総合振興局などを通じてそれなりに市に入ってくる仕組みになっていますので、組織的なものよりは、人的なつながりをより重視した方が良いと思います。

Q 外から見た道庁

私は、市町村派遣が2回目のため、市と町ではやはり違いがあります。町はどの課にいても直接町民が見えますが、市は窓口や福祉部門を除き見えにくいと思います。そういう意味では市は道の雰囲気に近いと思います。

道庁は実際にほとんど会ったことがない道民の考えを想像力で補っているため「道民が必要とすることは何か」、「道民に説明するにはどうするか」ということが、事業部門、財政部門、企画部門で立場・考え方が違い、話がかみ合わない場合もありますが、調査・分析や情報の蓄積、政策の緻密さは道が優れており、これを活かしていく必要があると思います。



釧路短期大学での木育教室



仁々志別の森林現況確認



多和平で家族と



細岡展望台からの釧路湿原

Q 休日・プライベート

休日のイベントが多く、豪華客船入港時や札幌での「さっぽろオータムフェスト」などでの出店対応のほか、交通誘導員・スケート大会天候調査員などの出勤もあります。

一度だけ、家族が来釧し、案内したときは楽しかったですね。

Q 今後の派遣職員へのアドバイスなど

地方自治体という仕事柄、その方法は違えど基本的な仕組みは変わりませんので、日々の業務については安心して良いと思います。ただ、以前短期研修でお世話になった民間企業はその雰囲気から全く違いましたので、初めのうち戸惑うことがあるかもしれません。

派遣は基本的に2年間が多く、その成果は短期的なものとその積み重ねが求められます。同時に、2年で到達困難な成果目標については、派遣終了後の事業の道すじ(線路のバラスト程度)は作っておいた方が良くと思います。

これまでの道職員としての経験、旧職場との関わりなど人的資源を生かして、派遣先のためにどんな価値を提供できるかを常に考えて仕事を続けることが大切なのではないかと思います。

○ 蝦名市長からお言葉をいただきました。

佐藤専門員には、産業振興部産業推進室にて地元木材の活用推進などに関する業務を担っていただいています。地元業者などの様々な関係機関との連携が重要となる業務ですが、人とのつながりを構築することにも長けている様子であり、スムーズに業務を進めることができます。優秀な方を派遣していただいたことに感謝しております。所属にも溶け込み、精力的に仕事をこなす姿は、当市の職員にとってもいい刺激になっているようです。

北海道からの派遣職員の皆さんは、どの方も意欲が高く、釧路市政に貢献していただいております。慣れない土地や業務内容にご苦労されることもあるかと思いますが、今後もぜひ派遣交流を継続させていただきたいと考えております。

(H19年採用・一般行政)



矢 元 あ み

○職務経歴

- 平成19年 7月 日高支庁地域振興部税務課
- 平成21年10月 日高支庁地域振興部総務課
- 平成24年 4月 日高振興局地域政策部地域政策課
- 平成26年 4月 後志総合振興局地域政策部総務課
- 平成26年 4月 二セコ町企画環境課(派遣)

○ 派遣先での仕事内容

企画環境課経営企画係に所属し、私は移住・定住、国際交流、町総合計画、男女共同参画などを担当しています。

国際交流事業では、国際交流員という外国人スタッフ4名とともに、二セコ地域の住民が国籍を問わず暮らしやすいまちにするため、文化イベントの開催や学校で多言語での絵本読み聞かせを行うなど様々な取り組みを行っています。

係としては企画全般の非常に幅広い業務を行っています。

Q 派遣を打診されたときの感想など

そろそろ転職かなと思っていましたが、市町村派遣は考えてもいなかったもので、本当に驚きました。

初めての転職で市町村派遣、私で本当に大丈夫かな…という不安もありましたが、行ってみたいという気持ちの方が強かったです。二セコ町と決まってからは、仕事のことよりも遊ぶことばかり考えていました(笑)。



フランスからの視察団と



二セコ駅

Q 印象深かった仕事など

ニセコ町で働いて驚いたことは、ニセコ町を視察に色々な地域から多くの方が訪れていることです。特に、フランスや中南米地域の国々など、海外からもたくさんの方が視察に訪れるのは、さすがニセコ！と思いました。

私は国際交流事業の担当をしているので、受入れ対応で視察に同行することがありますが、役場職員のプレゼンテーション能力や、視察団が帰るときにはバスが見えなくなるまで手を振ってお見送りをするなどおもてなしの心は素晴らしいと思います。

視察に来られた方がみなさん笑顔で帰っていられるのが、とても印象に残っています。



北海道暮らしフェアin名古屋

Q 道と市町村の連携について

振興局と市町村は仕事で関わることは多いですが、電話やメールのやり取りがほとんどで実際に会うことは少なく、一度も顔を合わせたことがないということも多いと思います。

様々な連携をしていくためにも、まずは市町村に行き、地域を知り、直接会って話をするのが大切だと思います。

一度でも直接会って話をするだけで、お互いに話がしやすくなり、相談もしやすくなるのではないのでしょうか。

Q 風土や仕事の進め方などで感じたこと

組織規模の違いはありますが、職場環境は風通しが良く、仕事の内容、問題点など様々な情報を共有できています。そして、町長との距離が近いと感じます。

何かあるとすぐに町長室で打合せを行い、意思決定をするので、価値観や考えを共有できるとともに、一人ひとりが主体的に仕事をしています。

この「情報共有」は、「まちづくり基本条例」の精神によるもので、役場内部だけでなく、ニセコ町民に対しても行われています。

道庁では、情報が組織全体に伝わっていないことがあり、自分の仕事の意味がわからないまま、ただ与えられた仕事をこなしていることもあると思います。

「何のためにこの仕事をするのか」「なぜこの仕事が必要なのか」といった意味を考えて仕事をすることは、仕事をスムーズに進めるとともに、やりがいを感じ、自分自身の成長にも繋がると思います。そのためにも、職場で情報の共有を図ることは大事なことだと考えます。

Q 外から見た道庁

住民と接する機会の多い役場の方々は、相手の立場や気持ちを考えた言動を常に取っていて、対応が親切で丁寧だと感じます。

「道庁(道職員)は対応が冷たい」と言われたことがありますが、必要なことは、常に相手のことを考え、お互いに信頼し合える関係をつくっていくことだと思います。



ニセコマラソンフェスティバル

Q 休日・プライベート

ラフティング、スノーボード、温泉めぐり等、ニセコを満喫しています。

せっかくニセコにいるので、世界でも有名なニセコのパウダースノーを体験するべく、今年からスノーボードを始めました。転んでも痛くないので、初心者でも楽しく滑れます。

また、地域のイベント(町内運動会やお祭りなど)のお手伝いをすることがあります。振興局では経験することがなかったので、楽しく参加しています。



狩太神社祭



尻別川でラフティング

羊蹄山



Q 今後の派遣職員へのアドバイスなど

道庁にいた時にはなかなか実感が得られませんでした。市町村では住民との距離が近く、直接自分の仕事が住民に役立っているという実感を持つことができました。

実際には、市町村でも道庁でも、住民の生活向上という基本的な目的は全く同じであり、今回の市町村派遣で、そうした基本に立ち返ることができました。

道庁との仕事の仕方や考え方の違いに戸惑ったり、道職員は冷たいと言われたり、居酒屋のママに厳しいお叱りの言葉をいただいたり(反省しています)、楽しいことばかりではないですが、道庁ではできない貴重な経験をし自分の視野を広げることは、今後の道職員としての仕事にも繋がっていくと思います。

市町村派遣に興味のある方は、ぜひチャレンジしてみてください。

○ 片山町長からお言葉をいただきました。

矢元さんの働きぶりには感服します。特に素晴らしいのは、「仕事から逃げない」真摯なバイタリティです。いつも笑顔で明るく、仕事に向かっています。

職場や上司も絶大な信頼を持っています。仕事の処理能力も卓越しています。

国や民間のキーパーソンが来たとき、矢元さん自身の人脈を広げて欲しいことから声をかけることがありますが、積極的に参加してくれ、発言しっかりしていて頼もしい限りです。

本町では、これまで北海道から副町長(助役)2名と職員9名の派遣を受けてきましたが、それぞれの方が、職員や町民とのネットワークを築いてくれ、今も交流が続いております。

私たちにとっても、道で培ったDNAを役場組織に注入いただくことで、組織にとって大変良い刺激となっています。

北海道の市町村への派遣事業の成果はとても大きく、こうした人事交流が北海道の活性化、組織相互のガバナンス機能の強化に繋がっていくものと期待をしております。

今回、本町議会では、男女共同参画、女性の活躍が議論されることが多くありましたが、矢元さんはこうした議員対応も的確で、敏速な対応が大変高く評価されており、大変感謝をしております。

今後とも、北海道と市町村の交流人事が拡充することに期待しております。



道職員活躍事例集（派遣編③）

平成27年4月
北海道

【ご意見などがありましたらこちらまで】

北海道総務部人事局人事課人事グループ

電話：011-204-5078（直通）

F A X：011-221-6399

電子メール：somu.jinji10@pref.hokkaido.lg.jp